Ⅳ. 授 業 科 目 の 概 要

科目名	日本文学特論Ⅰ（古代文学）	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
担当者名	畠山　篤	授業形態	講義				
授業の概要	記・紀・風土記を精読し、倭建伝承と二皇子発見譚の真相を追求する。これらの伝承の基盤には、冬至前後に執り行う新嘗祭（稲の収穫祭）が大きくかかわっているらしいことを炙り出す。						
到達目標	１　景行記・紀、顕宗記・紀、播磨国風土記における倭建伝承と二皇子発見譚の生成・構造・主題に迫る。 ２　自分なりの仮説を立て、その視点で今までの諸説を整理できる。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス、記の皇統譜	播磨国風土記の隠び妻伝承をもつ両親に注目。	
第2回	兄殺し	王権を犯す国家反逆罪に相当することに注目。	
第3回	熊襲建征伐	新嘗祭を服属儀礼にしたことに注目。	
第4回	出雲建征伐	禊ぎによる和平儀礼を転用することに注目。	
第5回	尾張・相模の平定	聖婚の延期と火責めされることに注目。	
第6回	弟橘比売・足柄・筑波問答	水の神女、東国の境、東征の完了・制服に注目。	
第7回	美夜受比売との聖婚	月経の禁忌とその解除による服属の成立に注目。	レポート提出⑴
第8回	伊吹山、大御葬歌	草薙の剣＝天照大御神の威力の顕示・天皇の葬儀の祭祀世界に注目。	
第9回	二皇子発見譚の構造	記紀、風土記の関連記事を一覧して、その構造に注目。	
第10回	民俗の祝福芸能	新嘗祭、新築祝いという祭式に注目。	
第11回	〈柳の歌〉の主題と意義	〈柳の歌〉の独立歌謡と物語歌謡の二面に注目。	
第12回	王としての名宣り（１）	初春の国土賛美による皇統の宣揚に注目。	
第13回	王としての名宣り（２）	武と文による皇統の宣揚に注目。	
第14回	弾琴による統治	弾琴・文による統治と弾琴による歌劇に注目。	レポート提出⑵
第15回	まとめ	本演習を振り返る。	

評価方法及び評価基準	授業への取り組みと毎回の授業評価（３０％）。レポート（１０００字くらい）２本（３５％×２）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。
教材教科書参考書	随時プリントを配布する。
留意点	レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。６回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。

科目名	日本文学特論Ⅱ（中世文学）	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
担当者名	中野 顕正	授業形態		講義			
授業の概要	本講義では、室町時代の演劇である「能楽」を取り上げる。能楽は、同時代やそれ以前の時代の様々な文学作品を縦横無尽に典拠・素材としているとともに、後代の文学や美術にも多大な影響を与えており、いわば日本文学史のエッセンスが詰まった総合芸術である。それゆえこの授業では、能楽を通して日本（特に中世）の文学史・文化史の諸相に触れてゆくこととする。						
到達目標	1.能楽を中心とする日本古典（特に中世）への理解を深める。 2.日本中世を題材に、人間営為としての文芸・文化・社会・思想に対する洞察力を身につける。 3.典拠との比較に基づく適切な読解に立脚した、学問としての堅実な作品分析の方法を理解する。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	本講義全体についての概要説明。	
第2回	能楽の歴史と作品	能楽の作品を読むにあたっての、全般的・基礎的事項の説明。	
第3回	能《海士》を読む　1.概要	能《海士》の概要解説。	
第4回	能《海士》を読む　2.典拠(1) 縁起	能《海士》の典拠となった『志度寺縁起』の解説。	
第5回	能《海士》を読む　3.典拠(2) 経典	能《海士》の準典拠となった『妙法蓮華経』の解説。	
第6回	能《海士》を読む　4.作劇法	能《海士》が典拠に基づき構築された方法の解説。	
第7回	能《海士》を読む　5.鑑賞	能《海士》の映像鑑賞。	映像鑑賞、レポート
第8回	狂言《武悪》を読む　1.概要と作劇法	狂言《武悪》の概要解説。	
第9回	狂言《武悪》を読む　2.歴史的景観	狂言《武悪》の歴史的・地理的背景についての解説。	
第10回	狂言《武悪》を読む　3.鑑賞	狂言《武悪》の映像鑑賞。	映像鑑賞、レポート
第11回	能《井筒》を読む　1.概要	能《井筒》の概要解説。	
第12回	能《井筒》を読む　2.典拠	能《井筒》の典拠となった『伊勢物語』の解説（中世伊勢注を含む）	
第13回	能《井筒》を読む　3.作劇法	能《井筒》が典拠に基づき構築された方法の解説。	
第14回	能《井筒》を読む　4.鑑賞	能《井筒》の映像鑑賞。	映像鑑賞、レポート
第15回	総括	講義全体を振り返る。	

評価方法及び評価基準	レポート（30点×3回）、受講態度（10点）。 レポートは、講義内容を踏まえて舞台映像を鑑賞し、気づいたこと、感じ・考えたことをまとめるという内容を予定している。
教材教科書参考書	伊藤正義 校注『謡曲集』上・中・下（新潮日本古典集成、新潮社、1983-88年）。 ※必要に応じ授業内でコピーを配布するため、購入する必要はない。
留意点	取り上げる教材については、受講生の関心等に応じて適宜変更する場合がある。 質問等ある場合には、メール（a.nakano@hirosaki-u.ac.jp）にて対応する。

科目名	日本文学特論Ⅳ(近現代文学)	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
担当者名	顧 偉良	授業形態		講義			
授業の概要	夏目漱石の紀行文『満韓ところどころ」を講読する。この作品は、明治42年10月21日から12月30日まで、『朝日新聞』にかかげた紀行文である。当時、漱石がこの目で見た旧満州、および朝鮮の状況はどんなものであったか。この作品の中に、当時日本の統治下に置かれた旧満州、朝鮮の状況はリアルに伝えられている。貴重なリポートである。作品を通して漱石の考えおよび身体状況を知ることができる。						
到達目標	作品の理解						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	『満韓ところどころ」について	朝日新聞社に入社した漱石について	
第2回	『満韓ところどころ」１～4	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第3回	『満韓ところどころ」5～8	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第4回	『満韓ところどころ」9～12	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第5回	『満韓ところどころ」13～16	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第6回	『満韓ところどころ」17～20	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第7回	『満韓ところどころ」21～24	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第8回	『満韓ところどころ」25～28	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第9回	『満韓ところどころ」29～32	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第10回	『満韓ところどころ」33～36	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第11回	『満韓ところどころ」37～40	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第12回	『満韓ところどころ」41～44	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第13回	『満韓ところどころ」45～48	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第14回	『満韓ところどころ」49～51	作品の表現法上の特色、人物描写について読解と分析。	
第15回	まとめ	漱石の思想及び身体状況について	

評価方法及び評価基準	授業への取り組み10%、出席率30%、レポート60%
教科書	『漱石紀行文集』、岩波文庫
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位取得不可。

科目名	日本語学特論(日本語学)	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
担当者名	今村　かほる	授業形態		講義			
授業の概要	現代日本語を例として、ことば・方言と社会の関係について考える。具体的な問題を主題として、ことばの運用面のテーマを考える。						
到達目標	言語地理学や社会言語学の基礎知識を身につけるだけでなく、現代社会における言語の問題について扱う。各テーマに対し、具体的な例を用いて説明ができるようにする。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	講義の進め方と評価について	講義の進め方および評価について理解する	
第2回	社会とことば	社会とことばとの関係性　一般言語学と応用言語学	
第3回	標準語・生活語・方言	標準語・共通語と方言の形成	
第4回	日本語方言の形成過程	方言の形成過程	
第5回	言語と方言の区画	言語区画とは何か、日本語方言の区画	
第6回	言語地理学	世界の言語地理学と日本の言語地理学	
第7回	共通語化	全国共通語・地方共通語・コイネー	
第8回	新方言・気づかない方言	新方言・ネオ方言・ネオダイアレクト　気づかない方言	
第9回	やさしい日本語	やさしい日本語　理論と実践　フィールドワーク実施	
第10回	言語接触	言語接触の問題　ピジン・クレオール　異文化理解	
第11回	言語行動	言語行動の問題　日本語と諸外国語　異文化間コミュニケーション	
第12回	日本語教育	言語政策と日本語教育　外国人労働者と日本語を含む	
第13回	言語・方言と医療・福祉	医療や福祉現場に於けるコミュニケーション上の問題(1)	
第14回	言語・方言と医療・福祉	医療や福祉現場に於けるコミュニケーション上の問題(2)	
第15回	言語政策	国語政策・国語問題・国語教育	

評価方法及び評価基準	講義時のコメント15%・提出物25%・レポート60%　評価は、論理性・具体性を重視する。
教材教科書参考書	井上史雄・木部暢子編　『はじめて学ぶ方言学』ミネルヴァ書房
留意点	コロナウイルス感染状況にもよるが、フィールドワークを実施できれば行う。また、代替手段として、ＷＥＢ調査に切り替えることもある。

科目名	日本文法特論(日本語学)	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
担当者名	今村　かほる	授業形態		講義			
授業の概要	待遇表現研究　待遇表現としての敬語について、現代敬語の特徴と分類について知り、運用上の問題点とその対策について考える。						
到達目標	国語に関する世論調査と教科書教材を中心に、現代の敬語の問題点と、若者を中心とした敬語意識について知る。 レジュメの作り方、発表の仕方などプレゼンテーションの能力を高めとともに、学術的な根拠に基づく論理的思考を身につける。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	はじめに	講義の進め方・グループワークとその準備および評価について理解する	
第2回	文献の講読「現代の敬語」	文献を入手し、講読する	
第3回	文献の講読「敬語の指針」	文献を入手し、講読する	
第4回	文献の講読「国語に関する世論調査」	文献を入手し、講読する	
第5回	文献の講読「学習指導要領」	文献を入手し、講読する	
第6回	パソコン実習	調べる・まとめる・発表するための道具として	
第7回	図書館演習	先行研究文献の入手とまとめ	
第8回	学習指導要領研究（1）	敬語教育史1	
第9回	学習指導要領研究（2）	敬語教育史2	
第10回	教科書研究（1）	教科書教材研究（光村図書）	
第11回	教科書研究（2）	教科書教材研究（教育出版）	
第12回	教科書研究（3）	教科書教材研究（東京書籍）	
第13回	教科書研究（4）	教科書教材研究（学校図書）	
第14回	教科書研究のまとめ	敬語に関する課題の検討	
第15回	総括	敬語研究と教育	

評価方法及び評価基準	発表40%・講義時のコメント20%・レポート40% 評価はwebデータを中心としたデータの取り扱いや分析・考察が、学術研究の手順に従ってできるかどうかを重視する。
教材教科書参考書	適宜、プリントを配布する。また、国語教科書と学習指導要領等を入手し、使用する。その他、データの入手等でＷＥＢを利用する。
留意点	Ｃｉｎｉｉを使用する。図書館を頻繁に使用し、アクティブラーニングを採用する。国語辞典、古語辞典、漢和辞典、漢語辞典等の工具書を使いこなすこと。

科目名	民俗学特論	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
担当者名	下田　雄次	授業形態		講義			
授業の概要	日本の年中行事や民俗芸能（盆踊りや神楽など）を信仰や習俗の側面からとらえ、庶民の生活文化を明らかにする。						
到達目標	信仰と年中行事・民俗芸能との関りを通して、日本の民俗的世界について説明することができる。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	授業内容に関するガイダンスを行う。あわせてレポート・発表について説明する。	
第2回	儀式に見られる演劇的・芸能的性格	久高島のイザイホー祭や遠山の霜月祭を題材として、儀式にみられる演劇的・芸能的性格に着目する。これにより、民俗芸能の発生や信仰と芸能の関りについて考察する視点を獲得する。	
第3回	神霊をまつる唱文（語り物音楽）	オシラサマ信仰に関して、イタコの宗教的行為としてのオシラ祭文の読誦（どくじゅ）を題材としながら、そこに音楽的・芸能的要素を見出す。	
第4回	神事としての田植え	「田の神」信仰に関する年中行事・民俗芸能について説明するとともに、映像・画像を見ながらその実態を把握する。	
第5回	悪霊退散の呪術としての田楽	田楽芸能について風流の呪術的側面に着目しながら説明するとともに、映像・画像を見ながらその実態を把握する。	
第6回	稲につく害虫を追い払う虫送り行事	虫送り行事の風流的側面に着目しながら説明するとともに、映像・画像を見ながらその実態を把握する。	
第7回	幸福をもたらす祝福芸	言霊の信仰に基づいて祝福をする年中行事・民俗芸能について説明するとともに、映像・画像を見ながらその実態を把握する。	
第8回	踊る念仏芸能	仏教から発生した民俗芸能（念仏踊り）について説明するとともに、映像・画像を見ながらその実態を把握する。	
第9回	芸能的宗教者による大道芸	願人坊主にまつわる芸能について説明するとともに、映像・画像を見ながらその実態を把握する。	
第10回	信仰の側面から見た民俗芸能の性格	民俗芸能の持つ2つの性格（除災的性格と祝福的性格）に着目しながら、各種の民俗芸能について説明し、映像・画像を見ながらその実態を把握する。	
第11回	レポートの作成と提示	信仰の観点から年中行事・民俗芸能をとらえた視点に基づきながら、各人の理解と考察をまとめ提示する。	
第12回	信仰と年中行事・民俗芸能についての発表①	提示したレポートに基づいて発表する。レポートは最終日までに修正をして提出すること。	プレゼンテーション
第13回	信仰と年中行事・民俗芸能についての発表②	提示したレポートに基づいて発表する。レポートは最終日までに修正をして提出すること。	プレゼンテーション
第14回	まとめ	授業内容を小テストによって確認する	
第15回	授業の振り返りとレポートの提出	レポートは提示や発表で指摘された点や、気づいた点などを盛り込み、修正したものを提出する。	

評価方法及び評価基準	レポート30%、発表20%、小テスト50%。レポートは内容の正確さとともに、各自なりの考察ができているかを問う。
教材教科書参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。
留意点	毎回、授業に関するコメント（リアクションペーパー）を書いてもらい、相互の理解を深めたい。

科目名	民俗芸能特論	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
担当者名	下田　雄次	授業形態	講義				
授業の概要	民俗芸能に関する先行研究を取り上げ、民俗芸能研究の問題点を探る。調査・研究方法を学んだ上で受講者自らが口頭発表形式で発表を行い、レポートにまとめる。発表・レポートでは当該芸能の概要に加えて、類例との比較によるその芸能の位置づけや、授業で学んだ点を盛り込んだ各自の考察を行う。						
到達目標	民俗芸能の特質や調査方法について説明できる。 類例との比較を通してその芸能について自らの見解を述べることができる。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス 民俗芸能調査・研究への招待 （導入編）	授業内容に関するガイダンスを行う。 受講者の問題関心をヒアリングし、民俗芸能における各自の関心点についてディスカッションを行う。	講義形式 ディスカッション
第2回	民俗芸能調査・研究への招待① ※民俗芸能研究の動向	日本の民俗芸能研究における動向について書かれた文献を読み問題点を探る。	講義形式 ディスカッション
第3回	民俗芸能調査・研究への招待② ※民俗芸能の特質と系統	日本の民俗芸能の特質と系統について講義を行う。併せて、北東北の民俗芸能・祭りの概要にも触れる。 次回の資料を配布する（以降、資料は当日までに読んでおくこと）。	講義形式 ディスカッション
第4回	民俗芸能調査・研究への招待③ ※民俗芸能の特質と系統 ※課題の選出	日本の民俗芸能の特質と系統について講義を行う。併せて、北東北の民俗芸能・祭りの概要にも触れる。受講者が本講座で課題にする芸能・祭りを選出・検討する。次回の資料を配布する。	講義形式 演習
第5回	民俗芸能調査・研究への招待④ ※調査・研究方法を考える ※課題の設定	民俗芸能の調査・研究方法について具体例を挙げながら考え、その問題点を探る。文献・リサーチカードの説明。受講者が本講座で課題にする芸能・祭りを選定し各自の課題研究を設定する。	講義形式 演習
第6回	風流と芸能を考える ※やすらい花／念仏／御霊会／盆踊り／獅子踊り／ネブタ	風流の観点から芸能を論じている文献を読み問題点を探る。次回の文献資料を配布（当日までに資料を読み、リサーチカードA-1に記入しておくこと。）	講義形式 ディスカッション
第7回	風流の芸能　獅子（一人立ち）	「獅子踊り」についての文献を読み、受講者が演習を行う。リサーチカードA-1を完成し次回提出する。次回の文献資料を配布（当日までに資料を読みリサーチカードA-2に記入。）	演習形式
第8回	修験道の芸能　早池峰神楽	「早池峰神楽」についての文献を読み、受講者が演習を行う。リサーチカードA-2を完成し次回提出。次回の文献資料を配布（当日までに資料を読み、リサーチカードA-3に記入。）	演習形式
第9回	都市の祭礼　ネプタ・ネブタ	「ネプタ・ネブタ」についての文献を読み、受講者が演習を行う。リサーチカードA-3を作成し次回提出。次回の文献資料を配布（当日までに資料を読みリサーチカードA-4に記入。）	演習形式
第10回	都市の祭礼　祇園祭	「祇園祭」についての文献を読み、問題点を探る。受講者が演習を行う。あらかじめ資料を読んでおくこと。リサーチカードA-4を作成し次回提出。	演習形式
第11回	発表の準備	各自の課題研究の進捗状況について報告し、情報や意見の交換を行う。あらかじめ各自が対象にしている芸能・祭りに関する資料を収集整理しておくこと。資料については文献カードを提示して説明すること。	ディスカッション
第12回	民俗芸能・祭りに関する発表① 質疑応答 ディスカッション	受講者各自が発表を行う（発表時間20分、質疑応答10分）。発表者への質問も必須とする。発表内容について意見交換を行う（互いの課題研究を成長させる為に建設的な批判を行う）。配布資料を用意すること。	ディスカッション
第13回	民俗芸能・祭りに関する発表② 質疑応答 ディスカッション	受講者各自が発表を行う（発表時間20分、質疑応答10分）。発表者への質問も必須とする。発表内容について意見交換を行う（互いの課題研究を成長させる為に建設的な批判を行う）。配布資料を用意すること。	プレゼンテーション
第14回	まとめと小テスト	授業内容を小テストによって確認する	
第15回	授業の総括 レポート提出期限	レポートは発表での質疑応答・ディスカッションの内容を盛り込んだ内容にして提出する。	

評価方法及び評価基準	レポート30%、発表20%、小テスト50%。レポートは内容の正確さとともに、各自なりの考察ができているかを問う。
教材 教科書 参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。
留意点	毎回、授業に関するコメント（リアクションペーパー）を書いてもらい、相互の理解を深めたい。

科目名	漢文学特論(漢文学)	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
担当者名	植木　久行	授業形態		講義			
授業の概要	漢語の基礎知識と語法を広く学んだ後、日本で愛読された、訓点付きの注釈書を読んで、漢詩・漢文に対する理解を深める。						
到達目標	１，漢語の基礎知識と語法を習得する。２，漢詩文の多様な訓読方式に慣れて、平易な漢詩文を適切に訳せる力を身につける。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	訓読、辞書	我が国における訓読の変遷と、主要な辞書を解説。	
第2回	漢文、訓読	漢文、及び句読・訓読の意味を解説。	
第3回	字体・字形	字体・字形の歴史的変遷を解説。	
第4回	字義	漢字の多義性（本義・引申義・仮借義）と破読を解説。	
第5回	字音	呉音・漢音・唐音・慣用音を解説。	
第6回	音節、四声	音節（声母＋韻母）、四声（平上去入）、反切を解説。	
第7回	語法	語法の概説、偏義複詞、双声・畳韻の語を解説。	
第8回	小テスト他	小テストの後、榊原篁洲『古文真宝前集諺解大成』に入る。	
第9回	六朝（東晋）の詩	陶淵明「四時」（『古文真宝前集諺解大成』所収）を読解。	
第10回	中唐の詩	賈島「訪道者不遇」（『古文真宝前集諺解大成』所収）を読解。	
第11回	晩唐の詩①	熊谷立閑『三体詩法備考大成』巻１の冒頭と杜牧「江南春」を読む。	
第12回	晩唐の詩②	杜牧「江南春」（『三体詩法備考大成』所収）を続いて読解する。	
第13回	志人小説①	秦鼎『世説箋本』徳行篇の２話を読解する。	
第14回	志人小説②	秦鼎『世説箋本』言語篇・文学篇の各１話を読解する。	
第15回	まとめ、試験	試験＋まとめ	

評価方法及び評価基準	授業への参加度２５％、試験（小テスト＋最終試験）７５％。到達目標１・２に対応して、小テストでは漢語の基礎知識を問い、試験では漢詩文の読解力を問う問題を出す。いずれも理解度の高さを重点的に評価する。
教材教科書参考書	プリントを配付する。
留意点	江戸時代の多様な訓読文に触れる後半には、事前予習の必要性が次第に高まっていく。

科目名	伝承文学特論	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
担当者名		授業形態		講義			
授業の概要	〔キーワード：　伝承文学・古代文学　〕 伝承に基づく作品を扱って、正確に読み解いていき、その背景にある伝承世界を理解する。特に、『古事記』のヤマトタケル物語を取り上げて、文脈に沿いながら読みを深めたい。						
到達目標	伝承文学の特質を説明できる。 ヤマトタケル物語の特徴を述べることができる。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	授業内容に関してガイダンスを行う。レポート、およびテストについて説明する。	講義形式と演習形式
第2回	『古事記』のヤマトタケル　大碓と小碓と①	『古事記』のヤマトタケルの物語を取り上げて、文脈に沿いながら読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第3回	『古事記』のヤマトタケル　大碓と小碓と②	『古事記』のヤマトタケルの物語を取り上げて、文脈に沿いながら読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第4回	『古事記』のヤマトタケル　西征①	『古事記』のヤマトタケルの物語を取り上げて、文脈に沿いながら読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第5回	『古事記』のヤマトタケル　西征②	『古事記』のヤマトタケルの物語を取り上げて、文脈に沿いながら読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第6回	『古事記』のヤマトタケル　西征③	『古事記』のヤマトタケルの物語を取り上げて、文脈に沿いながら読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第7回	『古事記』のヤマトタケル　東征①	『古事記』のヤマトタケルの物語を取り上げて、文脈に沿いながら読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第8回	『古事記』のヤマトタケル　東征②	『古事記』のヤマトタケルの物語を取り上げて、文脈に沿いながら読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第9回	『古事記』のヤマトタケル　東征③	『古事記』のヤマトタケルの物語を取り上げて、文脈に沿いながら読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第10回	『古事記』のヤマトタケル　愛と死	『古事記』のヤマトタケルの物語を取り上げて、文脈に沿いながら読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第11回	レポートの作成	『古事記』のヤマトタケルの物語について、レポートを作成する。字数は1600～2000字とする。	
第12回	レポートを発表する①	作成したレポートに基づいて、発表する。質疑応答を行い、読みを深める。	プレゼンテーション
第13回	レポートを発表する②	作成したレポートに基づいて、発表する。質疑応答を行い、読みを深める。	プレゼンテーション
第14回	まとめ	小テストを行い、授業内容を確認する。また、質疑応答を生かした内容にして、レポートを提出する。	
第15回	振り返り	授業の振り返りを行う。	

評価方法及び評価基準	小レポート40%、発表10%、小テスト50%。レポートは、ヤマトタケルの物語を取り上げて、何か一つ問題点を設定し、それについて自分なりにアプローチできたかがポイントになる。テストは、授業内容をまとめた上で、自分なりの考察ができたかを問う。
教材教科書参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。
留意点	毎時間、コメントを書いてもらい、相互の理解を深める。

科目名	地域文学特論	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
担当者名		授業形態		講義			
授業の概要	〔キーワード：　遠野物語・地域文学　〕 柳田国男の『遠野物語』を取り上げて、背景を考えながら話の意味を捉えていく。その上で本作品の特質について考える。						
到達目標	『遠野物語』を通して、地域に根ざした作品の特質について把握する。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	授業内容のガイダンスを行う。また、レポート、およびテストの説明を行う。	講義形式と演習形式
第2回	『遠野物語』を読む　「神の始め」	『遠野物語』に収められた話の意味を背景を考えながら、読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第3回	『遠野物語』を読む　家の神「オシラサマ」	『遠野物語』に収められた話の意味を背景を考えながら、読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第4回	『遠野物語』を読む　家の神「ザシキワラシ」	『遠野物語』に収められた話の意味を背景を考えながら、読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第5回	『遠野物語』を読む　「山の神」	『遠野物語』に収められた話の意味を背景を考えながら、読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第6回	『遠野物語』を読む　「神女」	『遠野物語』に収められた話の意味を背景を考えながら、読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第7回	『遠野物語』を読む　「天狗」	『遠野物語』に収められた話の意味を背景を考えながら、読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第8回	『遠野物語』を読む　「塚と森と」	『遠野物語』に収められた話の意味を背景を考えながら、読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第9回	『遠野物語』を読む　「家の盛衰」	『遠野物語』に収められた話の意味を背景を考えながら、読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第10回	『遠野物語』を読む　「魂の行方」	『遠野物語』に収められた話の意味を背景を考えながら、読み解いていく。受講生は予め当該箇所を読んでおくこと。	
第11回	レポートを作成する	『遠野物語』の中から一つ話を選んで、それについてレポートを作成する。字数は1600～2000字とする。	
第12回	レポートを発表する①	作成したレポートに基づいて、発表する。質疑応答を行い、読みを深める。	プレゼンテーション
第13回	レポートを発表する②	作成したレポートに基づいて、発表する。質疑応答を行い、読みを深める。	プレゼンテーション
第14回	まとめ	授業内容を小テストによって確認する。また、質疑応答を生かした内容にして、レポートを提出する。	
第15回	振り返り	授業の振り返りを行う。	

評価方法及び評価基準	小レポート40%、発表10%、小テスト50%。レポートは、『遠野物語』の中から一話を選んで、何か問題点をあげ、それについて自らの考えを提示できたかがポイントになる。テストは授業内容をまとめた上で、自分なりの考察ができたかどうかを問う。
教材教科書参考書	『遠野物語』　柳田国男　角川ソフィア文庫（すでに持っているものでよい）
留意点	毎回、授業に関するコメントを書いてもらい、相互の理解を深めたい。

科目名	地域史特論	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
担当者名	齊藤　利男	授業形態		講義			
授業の概要	テーマ；「地域」の視点に立って日本およびアジアの歴史の学習を行う。 「地域」の視点から日本及びアジアの歴史を学ぶのに適した具体的なテーマを選択し、講義を主体に、教師側からの一方通行の授業でなく演習の要素も加えた「参加型」の授業を行います。重要な問題については、次回までの課題とすることもあります。なお、昨年は、「聖徳太子とその時代」をテーマとし、継体王朝の成立から飛鳥時代までの歴史の学習を行いました。						
到達目標	国家・中央政府・首都中心ではない、「地域」という視点をもつことによって、気づくことができる歴史の真実をおさえること、そして、そのことを通して、国家や社会、あるいはアジアやヨーロッパといった地域世界全体の未来について、視野の広い適切なものの見方ができるようになることを、目標とします。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	テーマとテキストの選択	参加者の希望をふまえてテーマとテキストを選びます。	
第2回	テキストを柱にした学習１	テキストをもとに教師が解説し、討論による分析も行います。	
第3回	テキストを柱にした学習２	第３回以降は、前回出た課題の報告も加わります。	
第4回	テキストを柱にした学習３	第２回・３回の方式で授業を行います。	
第5回	テキストを柱にした学習４	第２回・３回の方式で授業を行います。	
第6回	テキストを柱にした学習５	第２回・３回の方式で授業を行います。	
第7回	テキストを柱にした学習６	前半を終えるにあたっての中間総括の課題を設定します。	
第8回	中間総括・討論	前回設定した課題に即して中間総括を行います。	
第9回	テキストを柱にした学習７	第２回・３回の方式で授業を行います。	
第10回	テキストを柱にした学習８	第２回・３回の方式で授業を行います。	
第11回	テキストを柱にした学習９	第２回・３回の方式で授業を行います。	
第12回	テキストを柱にした学習10	第２回・３回の方式で授業を行います。	
第13回	テキストを柱にした学習11	第２回・３回の方式で授業を行います。	
第14回	テキストを柱にした学習12	全体を終了するに当たっての総括の課題を設定します。	
第15回	課題発表と討論	前回設定した課題に即してテーマ全体の総括と討論を行います。	

評価方法及び評価基準	授業への参加度（３０％）と、中間および終了時に課す課題の評価（７０％）を合算して、全体評価を行います。
教材教科書参考書	テキストはコピーして配布します。また教師の解説に必要な資料・レジュメも、授業の進行に合わせて適宜配布します。
留意点	

科目名	地域メディア特論	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期集中
担当者名	玉田　馨	授業形態		講義			
授業の概要	情報が氾濫するネット社会において、情報の精査、整理、企画、編集する力と、地域の特色を理解し、完成度が高く、グローバルな視野をもった魅力ある情報を発信する力を養う。 また、多様化するメディアを理解し、出版、編集の基本を学び、幅広くメディアを担う人材の育成を図る。						
到達目標	・出版、編集に必要な総合知識を身につけさせ、企画構成、文章、校正に至るリテラシー能力を高める。 ・地域メディアの歴史と人物を学ぶ。 ・学生が発信したい地域ならではのテーマを学び、情報価値のある媒体を企画。編集会議、企画立案から取材、原稿の作成と編集の実践を通して、その成果を小論文に反映させる。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	講師の自己紹介と講義内容の説明。マスコミに対する知識と職業観、学びたい、知りたいことなどをプリントに記入。学生の自己紹介。	
第2回	メディアの変遷	技術革新にともなうメディアの歴史的変遷と広告宣伝との関係。その社会システムと役割。ネット社会の現状と変わりゆく出版形態。	
第3回	地域メディアの特色と役割	地域に密着した情報誌、新聞、放送局などを見学し、その現場から特色と役割を学ぶ。	
第4回	地域の出版文化	青森県と津軽地方の出版文化と歴史	
第5回	媒体発行のシステム	地方新聞、地域情報誌などを具体例に、媒体発行までの流れを追う	校外学習
第6回	編集会議シミュレーション①	情報価値の高い媒体発行を想定し、ブレーンストーミング	
第7回	編集会議シミュレーション②	素材、テーマの選択、集約	
第8回	企画立案	企画書作成、構成、コンテンツの確立	
第9回	取材と資料収集①	取材アプローチ、インタビュー、撮影、資料収集、情報整理	
第10回	取材と資料収集②	①の補足、補填。情報整理後の課題と解決法	
第11回	原稿作成	取材と資料収集をもとに原稿作成	
第12回	編集、校正	草稿から推敲。見出し、キャッチコピー、レイアウト、デザイン	
第13回	講評	講評の基本に基づき、完成した記事、作品を発表し、各人が講評	
第14回	近未来の地域メディア	変わらぬ情報価値、多様性をともなう地域メディアの可能性	
第15回	小論文作成	まとめと定期試験	

評価方法及び評価基準	授業への参加率と学習効果：40%、定期試験：60%。多様化するメディアの理解を前提に、情報発信力を試す。発言、原稿、論文などの構成、論理性に加え、誤字脱字の校正力を試す問題を課す。
教材教科書参考書	講師の配布するプリント
留意点	受講生の能力発掘と向上

科目名	日本文学演習Ⅰ（古代文学）	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
担当者名	畠山　篤	授業形態		演習			
授業の概要	菅原道真が太宰謫居時代に詠んだ詩を編集した『菅家後集』を読む。栄華から没落に逆転した身の上を道真がどのように認識していたかを辿ってみる。この詩集が、後に天神に祭られることとどのようにかかわるかという視点で読んでみる。						
到達目標	１　一語一句を正確に解釈でき、詩の主題が理解できる。 ２　道真の栄華と今の没落の視点を基に、後の天神伝承とのつながりを見出す。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	道真の生涯と『菅家後集』の概説。	
第2回	４７６～４７９の読解	読解と質疑応答。	
第3回	４８０～４８３の読解	読解と質疑応答。	
第4回	４８４⑴の読解	読解と質疑応答。	
第5回	４８４⑵の読解	読解と質疑応答。	
第6回	４８５・４８６の読解	読解と質疑応答。	
第7回	４８７～４８９の読解	読解と質疑応答。	
第8回	４９０～４９２の読解	読解と質疑応答。	レポート提出⑴
第9回	４９３～４９６の読解	読解と質疑応答。	
第10回	４９７～５００の読解	読解と質疑応答。	
第11回	５０１～５０４の読解	読解と質疑応答。	
第12回	５０５～５０８の読解	読解と質疑応答。	
第13回	５０９～５１１の読解	読解と質疑応答。	
第14回	５１２～５１４の読解	読解と質疑応答。	レポート提出⑵
第15回	まとめ	本演習を振り返る。	

評価方法及び評価基準	授業への取り組みと毎回の授業評価（３０％）。レポート（２，０００字くらい）２本（３５％×２）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。
教材教科書参考書	随時プリントを配布する。
留意点	レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。６回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。

科目名	日本文学演習Ⅲ（近世文学）	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
担当者名	藁科　勝之	授業形態		講義			
授業の概要	テーマ：江戸文化と文学と言語表現 　江戸文化爛熟の化政期に生まれた作品を読解・鑑賞しつつ、作品とそれを産み出す社会的背景を考察する。 　その具体的作品として、化政期の口語を反映する歌舞伎脚本『東海道四谷怪談』をとりあげ、その受容と影響の大きさを考える。						
到達目標	１．近世文学の流れとジャンルの概要を説明できる。 ２．武士階級、庶民の生活、生き方と心情を把握する。 ３．『東海道四谷怪談』のはらむ現代的課題が理解できる。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
1	はじめに―近世文学概説	講義の進め方 近世とは―政治史と文学史	
2	上方と江戸	上方文学と江戸文学の流れについて	プリント配布 （以下毎回配布）
3	歌舞伎について 鶴屋南北	江戸歌舞伎の発生―作家と作品	
4	『東海道四谷怪談』	鶴屋南北の四谷怪談創作	
5	四谷怪談と忠臣蔵	四谷怪談に取り入れられた忠臣蔵について	
6	忠臣蔵と近世文学	赤穂事件とその影響、及び忠臣蔵の発生	
7	四谷怪談―梗概、人物	四谷怪談のあらすじ、登場人物とその関係	
8	四谷怪談読解（１）	浅草境内の場（以下、テキストの該当の場を読解する。）	中間レポート 課題提示
9	四谷怪談読解（２）	裏田甫の場	
10	四谷怪談読解（３）	雑司ヶ谷四谷町の場	
11	四谷怪談読解（４）	十万坪隠亡堀の場	
12	四谷怪談読解（５）	深川三角屋敷の場	
13	四谷怪談読解（６）	小塩田隠れ家の場	
14	四谷怪談読解（７）	夢の場 蛇山庵室の場	最終レポート提出の通知
15	まとめ	授業の総括	

評価方法及び評価基準	３分の２以上の出席を条件として、 （１）中間レポート…必要な調査、データの収集を適切に行っているか、それらを用いての説明、主張が説得的であるかどうかを総合的に評価する（４０％）。 （２）最終レポート…各自が設定したテーマに即して、必要な先行文献調査を行なっているか、データの収集、処理は適切か、それらを踏まえての説明記述が論理的かどうかを総合的に評価する（６０％）。
教材 教科書 参考書	教科書として、岩波文庫『東海道四谷怪談』を用いる。 参考書、参考文献等は、授業時に随時紹介する。
留意点	国語辞典、古語辞典、漢和辞典、漢語辞典等の工具書を使いこなすこと。

科目名	日本文学演習Ⅳ(近現代文学)	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
担当者名	井上　諭一	授業形態		演習			
授業の概要	《昭和期の文学》小説の方法という点で昭和期を代表する小説作品（「濹東綺談」1937、「人間失格」1948、「豊穣の海」1965-1971）とそれに対する分厚い研究論文群を精読する。						
到達目標	対象作品が発表された当初の評価だけではなく、時代と文化の状況の中で、テクストがどう読み替えられて今日に至っているか、研究史を整理することで理解する。最終的には、2019年以降に可能な読み方とはどういうものであるか、小説方法と文化の両面について参加各人が明確な意見を持つようになる。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	対象とするテクスト、判型の確認等	
第２回	永井荷風「濹東綺談」(1)	院生による発表（参加者全員、5時間の予習と5時間の時間外学修必要）	
第3回	永井荷風「濹東綺譚」(2)	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第4回	永井荷風「濹東綺譚」(3)	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第5回	永井荷風「濹東綺譚」(4)	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第6回	太宰治「人間失格」(1)	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第7回	太宰治「人間失格」(2)	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第8回	太宰治「人間失格」(3)	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第9回	太宰治「人間失格」(4)	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第10回	三島由紀夫「豊穣の海」（1）	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第11回	三島由紀夫「豊穣の海」（2）	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第12回	三島由紀夫「豊穣の海」（3）	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第13回	三島由紀夫「豊穣の海」（4）	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第14回	三島由紀夫「豊穣の海」（5）	院生による発表（5時間の予習と5時間以上の時間外学修必要）	
第15回	総括討論；２０世紀の日本文学	担当教員を交えて、まとめとしての討論を行う。	

評価方法及び評価基準	１発表・質疑応答の内容50%　　２　学期末のレポート（4000～5000字程度）50% 両者を合算して評価する。レポートの評価基準；概ね過去の研究史を整理できれば６０点、小説について自分独自の意見を述べることができれば７０点、小説と文化の両方についてある程度の意見を述べることができれば８０点以上、小説と文化の両方について独創的な研究とみなせるレベルに達した場合９０点以上とする。すなわち、評価に当たって最も重視するのは独創性である。
教材教科書参考書	小説本文については、岩波書店『荷風全集』、筑摩書房『決定版太宰治全集』、新潮社『決定版三島由紀夫全集』。このうちで実際に使用する巻と、他版型で使用可能なものを教室で指示する。
留意点	大学院の演習であるから、発表（資料作成を含む）と質疑の両方について、相当程度に高度なものが要求されるのは当然である。毎時間、参加者全員に5時間の予習と5時間以上の時間外学修が必要とされる。発表者には、その数倍の学習が要請される。

科目名	日本語学演習(日本語学)	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
担当者名	今村　かほる	授業形態		演習			
授業の概要	[キーワード：ヴァーチャル方言　キャラ語、ドラマ方言] 　テーマ：現代社会における方言の役割　従来の地域方言と地域を越えたヴァーチャル方言など、新種の方言の果たす役割について考える。						
到達目標	（１）従来の地域語としての方言について理解する。 （２）新たに生まれた「ヴァーチャル方言」・「ドラマ方言」など新種の方言の社会的背景や、役割について調査し、理解する。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	はじめに	演習の進め方	
第2回	日本の方言	方言学概説	
第3回	教科書講読とまとめ（1）	教科書のまとめと発表	
第4回	教科書講読とまとめ（2）	教科書のまとめと発表	
第5回	教科書講読とまとめ（3）	教科書のまとめと発表	
第6回	Web資料・文献検索について	データベースや先行研究などのツールの理解	図書館利用のアクティブラーニング
第7回	受講生による課題と提示	各自のテーマ、調査対象資料の提示	分担・割り当て
第8回	受講生の発表（第１回）	発表と質疑応答、意見交換（第１回）	
第9回	受講生の発表（第２回）	発表と質疑応答、意見交換（第２回）	
第10回	受講生の発表（第３回）	発表と質疑応答、意見交換（第３回）	
第11回	受講生の発表（第４回）	発表と質疑応答、意見交換（第４回）	
第12回	受講生の発表（第５回）	発表と質疑応答、意見交換（第５回）	
第13回	受講生の発表（第６回）	発表と質疑応答、意見交換（第６回）	
第14回	受講生の発表（第７回）	発表と質疑応答、意見交換（第７回）	
第15回	まとめ	総括―レポートについて―	

評価方法及び評価基準	授業への参加度40%、期末レポート60%。 平常の授業では、資料の解釈等について、受講生との意見交換をするので、自らの考えを積極的に述べること。 レポートでは、当該問題例または自ら発見した問題例について、それまでの意見交換等を踏まえながら、批判的に記述する。
教材教科書参考書	教科書　田中ゆかり（2016）『岩波ジュニア新書　方言萌え！？』ISBN978-4-00-500845-2 参考文献等は、授業時に随時紹介する。
留意点	ＷＥＢ調査や文献調査など、各自のテーマに沿って行う。

科目名	課題研究Ⅰ	単位数	4単位	対象学年	1年	開講学期	通年
担当者名	畠山　篤	授業形態		講義			
授業の概要	基本資料に基づき、修士論文の執筆を構想し、論文の完成をめざす。						
到達目標	修士論文の執筆に着手できる。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	課題の探求①	課題をひたすら探求する。		第16回	論文の執筆①	執筆にひたすら励む。	
第2回	課題の探求②	課題をひたすら探求する。		第17回	論文の執筆②	執筆にひたすら励む。	
第3回	課題の探求③	課題をひたすら探求する。		第18回	論文の執筆③	執筆にひたすら励む。	
第4回	課題の探求④	課題をひたすら探求する。		第19回	論文の執筆④	執筆にひたすら励む。	
第5回	課題の探求⑤	課題をひたすら探求する。		第20回	論文の執筆⑤	執筆にひたすら励む。	
第6回	主題の探求①	主題をひたすら探求する。		第21回	論文の執筆⑥	執筆にひたすら励む。	
第7回	主題の探求②	主題をひたすら探求する。		第22回	論文の執筆⑦	執筆にひたすら励む。	
第8回	主題の探求③	主題をひたすら探求する。		第23回	論文の執筆⑧	執筆にひたすら励む。	
第9回	主題の探求④	主題をひたすら探求する。		第24回	論文の執筆⑨	執筆にひたすら励む。	
第10回	主題の探求⑤	主題をひたすら探求する。		第25回	論文の執筆⑩	執筆にひたすら励む。	
第11回	執筆の方法①	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第26回	論文の執筆⑪	執筆にひたすら励む。	
第12回	執筆の方法②	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第27回	論文の執筆⑫	執筆にひたすら励む。	
第13回	執筆の方法③	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第28回	論文の執筆⑬	執筆にひたすら励む。	
第14回	執筆の方法④	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第29回	論文の執筆⑭	執筆にひたすら励む。	
第15回	執筆の方法⑤	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第30回	論文の執筆⑮	執筆にひたすら励む。	

評価方法及び評価基準	授業への取り組みと毎回の授業評価（３０％）。論文の評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。
教材教科書参考書	
留意点	論文は一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。研究室への来訪を歓迎する。

科目名	課題研究Ⅰ	単位数	4単位	対象学年	1年	開講学期	通年
担当者名	今村　かほる	授業形態		講義			
授業の概要	学術論文の基礎を学ぶ。論理的思考や表現ができるための方法を学び、身につけるための基礎訓練をする。						
到達目標	学術論文に必要な、先行研究の調査・検討の上に立った仮説と調査、その上での結論を、無理なく提示できるようにする。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	ガイダンス	講義の進め方・評価・注意点		第16回	データと作表	データの見える化	
第2回	学術論文とは	学術論文の体裁と条件		第17回	結果	調査の結果のまとめ方	
第3回	問題	問題の発見　書き手の動機		第18回	結果の検討	結果をまとめる	
第4回	先行研究（１）	先行研究の探し方		第19回	考察（１）	先行研究を中心に比較	
第5回	先行研究（２）	先行研究の入手と整理		第20回	考察（２）	先行研究を中心に論点整理	
第6回	先駆研究（３）	先行研究の検討・研究の位置づけ		第21回	反論	他の観点からの考察	
第7回	仮説（１）	仮説とは		第22回	中間まとめ	論の見直し	
第8回	仮説（２）	仮説を立てる		第23回	中間発表	ＰＰＴによる報告	
第9回	調査方法（１）	検証方法の検討・文献調査		第24回	論理的再検討	論拠の弱い部分の補強	
第10回	調査方法（２）	検証方法の検討・フィールドワーク		第25回	実証データの再検討	論理的根拠の検討	
第11回	調査方法（３）	検証方法の検討・大規模調査		第26回	論理的再検討	論拠の弱い部分の補強	
第12回	調査計画と準備	調査研究計画を立て、準備する		第27回	注と参考文献	注と参考文献の検討	
第13回	調査実施	研究計画に従い実施		第28回	推敲	論文の推敲	
第14回	データ処理法	データ処理の方法		第29回	点検	学術論文の条件等点検	
第15回	データ集計	データの集計		第30回	総括	論文発表	

評価方法及び評価基準	3分の2以上の出席を条件として、 （１）指導を定期的に受け、その対応を着実に行ったかどうか（３０％） （２）課題論文の完成度（７０％）
教材教科書参考書	特定の教科書は用いない。 必要な資料は印刷・配付する。 参考書は、随時紹介する。
留意点	図書館とｗｅｂ利用の調べ学習をする。発表にはＰＰＴを用いる。

科目名	課題研究Ⅰ	単位数	4単位	対象学年	1年	開講学期	通年
担当者名	顧 偉良	授業形態		講義			
授業の概要	修士論文の研究課題に即して、文学史に於ける作品の意義、及び時代背景、そして作品研究の方法論などをめぐって指導する。						
到達目標	修士論文の構想、研究方法などを研鑽						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第16回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第2回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第17回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第3回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第18回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第4回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第19回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第5回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第20回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第6回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第21回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第7回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第22回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第8回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第23回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第9回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第24回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第10回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第25回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第11回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第26回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第12回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第27回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第13回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第28回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第14回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第29回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第15回	修士論文の構想	修士論文のテーマをめぐって文献を読む		第30回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	

評価方法及び評価基準	出席３０％　論文完成度７０％（修士論文の基準で論文作成を的確に判断する）
教材教科書参考書	教科書指定なし。研究テーマに応じて文献などを指示する。
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位取得不可。

科目名	課題研究Ⅰ	単位数	4単位	対象学年	1年	開講学期	通年
担当者名	藁科　勝之	授業形態		講義			
授業の概要	［キーワード：課題発見、調査方法、論証］ 課題論文の構想から、執筆、完成まで。 ・自分にとっての問題を見出し、課題として設定し、自らの力で解決していく力を養う。 ・自説を他者に説明し、論証する方法を修得する。						
到達目標	（１）自らの課題・目的を明確に設定し、表現する。 （２）論証と結論とを、手順を踏んで着実に過不足なく表現する。 （３）課題論文の完成						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	はじめに	論文の条件		第16回	論文執筆（３）	用例・データの点検と説明	
第2回	問題、課題の発見	問題提起とは何か		第17回	論文執筆（４）	各章、各節におけるトピックセンテンスの設定	
第3回	課題の発見（１）	調査・研究領域の選択（１）		第18回	論文執筆（５）	全章執筆に向けて	
第4回	課題の発見（２）	調査・研究領域の選択（２）		第19回	論文執筆（６）	まとめ	
第5回	課題の発見（３）	調査・研究領域の選択（３）		第20回	補充調査（１）	説明・論証不足の補い	
第6回	先行研究の調査（１）	自分の研究の位置づけ（１）		第21回	補充調査（２）	同上	
第7回	先行研究の調査（２）	自分の研究の位置づけ（２）		第22回	発表、討論（１）	他者の意見、批判を受ける	
第8回	先行研究の調査（３）	自分の研究の位置づけ（３）		第23回	発表、討論（２）	同上	
第9回	自説の整理	論文において主張する点は何か		第24回	論文補正（１）	発表、質疑等を踏まえて補訂	
第10回	構想発表	研究の目指すもの		第25回	論文補正（２）	同上	
第11回	論文の組み立て（１）	論文の構成を考える（１）		第26回	論文推敲	論文細部の補正	
第12回	論文の組み立て（２）	論文の構成を考える（２）		第27回	注、参考文献の整理	同上	
第13回	論文の組み立て（３）	論文の構成を考える（３）		第28回	校正	字句、表現の意直し	
第14回	論文執筆（１）	「目的」の明確化		第29回	成果発表	完成論文を発表し、質疑応答	
第15回	論文執筆（２）	章立ての具体化		第30回	総括	最終点検	

評価方法及び評価基準	3分の2以上の出席を条件として、 （１）指導を定期的に受け、その対応を着実に行ったかどうか（３０％） （２）課題論文の完成度（７０％）
教材教科書参考書	特定の教科書は用いない。 必要な資料は印刷・配付する。 参考書は、随時紹介する。
留意点	

科目名	課題研究Ⅱ	単位数	4単位	対象学年	2年	開講学期	通年
担当者名	畠山　篤	授業形態		講義			
授業の概要	基本資料に基づき、修士論文の執筆を構想し、論文の完成をめざす。						
到達目標	修士論文の執筆に着手できる。						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	課題の探求(1)	課題をひたすら探求する。		第16回	論文の執筆(1)	執筆にひたすら励む。	
第2回	課題の探求(2)	課題をひたすら探求する。		第17回	論文の執筆(2)	執筆にひたすら励む。	
第3回	課題の探求(3)	課題をひたすら探求する。		第18回	論文の執筆(3)	執筆にひたすら励む。	
第4回	課題の探求(4)	課題をひたすら探求する。		第19回	論文の執筆(4)	執筆にひたすら励む。	
第5回	課題の探求(5)	課題をひたすら探求する。		第20回	論文の執筆(5)	執筆にひたすら励む。	
第6回	主題の探求(1)	主題をひたすら探求する。		第21回	論文の執筆(6)	執筆にひたすら励む。	
第7回	主題の探求(2)	主題をひたすら探求する。		第22回	論文の執筆(7)	執筆にひたすら励む。	
第8回	主題の探求(3)	主題をひたすら探求する。		第23回	論文の執筆(8)	執筆にひたすら励む。	
第9回	主題の探求(4)	主題をひたすら探求する。		第24回	論文の執筆(9)	執筆にひたすら励む。	
第10回	主題の探求(5)	主題をひたすら探求する。		第25回	論文の執筆(10)	執筆にひたすら励む。	
第11回	執筆の方法(1)	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第26回	論文の執筆(11)	執筆にひたすら励む。	
第12回	執筆の方法(2)	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第27回	論文の執筆(12)	執筆にひたすら励む。	
第13回	執筆の方法(3)	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第28回	論文の執筆(13)	執筆にひたすら励む。	
第14回	執筆の方法(4)	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第29回	論文の執筆(14)	執筆にひたすら励む。	
第15回	執筆の方法(5)	どのような構想で書くかをひたすら考える。		第30回	論文の執筆(15)	執筆にひたすら励む。	

評価方法及び評価基準	授業への取り組みと毎回の授業評価（３０％）。論文の評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。
教材教科書参考書	
留意点	論文は一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。研究室への来訪を歓迎する。

科目名	課題研究Ⅱ	単位数	4単位	対象学年	2年	開講学期	通年
担当者名	顧 偉良	授業形態	講義				
授業の概要	修士論文の研究課題に即して、文学史に於ける作品の意義、及び時代背景、そして作品研究の方法論などをめぐって指導する。						
到達目標	修士論文の構想、研究方法などを研鑽						

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第16回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第2回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第17回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第3回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第18回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第4回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第19回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第5回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第20回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第6回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第21回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第7回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第22回	修士論文の構想	中間発表	
第8回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第23回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第9回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第24回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第10回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第25回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第11回	修士論文の構想	中間発表		第26回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第12回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第27回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第13回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第28回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第14回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第29回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について	
第15回	修士論文の構想	修士論文の展開、論証方法について		第30回	修士論文の構想	修士論文提出	

評価方法及び評価基準	出席３０％　論文完成度７０％（修士論文の基準で論文作成を的確に判断する）
教材教科書参考書	教科書指定なし。研究テーマに応じて文献などを指示する。
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位取得不可。